

有明高専

図書館報

No. 19



目 次

巻頭言	2~4
「私の薦める一冊の本」紹介文	5~8
教職員推薦図書	9
読書感想文秀作選	10
新着図書紹介	11~13
美術ギャラリー紹介	14
図書館統計	15
郷土の文化財・編集後記	16

有明工業高等専門学校図書館報

有明高専 図書館の近未来 ～集い語れる空間づくり～

図書館長 焼山 廣志



平成20年(2008年)に有明高専の図書館棟の耐震化工事に合わせて図書館の全面リニューアルを行い6年が経過した。一階のロビーは「有明高専美術ギャラリー」として大牟田美術協会の会員の方々のプロの絵画・書・写真・染色等の作品を直で鑑賞できるという、他の高専図書館では類を見ない優れた空間を創設することが出来た。その後、毎年一年に一回のペースで大牟田美術協会の皆さんとの全面的支援を受けて作品の入替を行い、斬新な美術作品を日々目の当たりにできる幸運に浴している。

その一方で図書館の全面改修にあたり心を割いたのが[学生が図書館で過ごす気持ちの良い空間の確保]であった。その一方策として図書館閲覧室の北側一面に一人用の机と椅子、電気スタンドを設置し、IT機器の使用に資するコンセントを設けた。その空間は目の前の机の窓から外の風景が見えるという解放感と相俟って多くの学生に利用されている。

他方で、複数の学生の利用を想定して二人用の机と椅子のある空間も閲覧室の南側に創出した。それには一人仕様にも対応できるように、机と机の間に木製のパーテーションを設けた。ところが、この仕切りがあまり用をなさないことが時が経つにつれてわかつてきた。またDVDルームやAVブースとともにネットの検索に資るために検索機能に特化したPC及びモニターを設置した。ところがこのコーナーがIT化の進展、IT機器の普及(スマホの普及)など学生を取り巻く環境の変化によりこうした場所で検索する必要性が薄ってきた。こうした状況を鑑み、もっとこのスペースを有効に使える空間に変えることは出来ないだろうか、具体的には[学生がグループで図書館の文献を利用しながら、自分の所有するIT機器を併用しながら一つの課題に取り組めるような空間]といったものをあれこれ思案して来た。その私の願いと符合するような取り組みをしている大学図書館の特集記事が朝日新聞に組まれていた。以下その一文を引用する。

集い語る、大学図書館に おしゃれな空間、利用者増える

難しそうな背表紙が並ぶ本棚に囲まれながら、ひとり黙々と勉強する—。そんなイメージの大学図書館が変わりつつある。グループで議論ができる「ラーニングコモンズ」と呼ばれるスペースを設ける大学が増えているためだ。同時に開館時間を延ばす例も多く、学生にとって静かにページをめくるというより、にぎやかに集う年になってきた。

昨年秋に四つの図書館を統合して開館した立教大の池袋図書館(東京都豊島区)には、壁で仕切ったグループ学習室8室がある。十数人のグループ用で、原則として予約が必要。このほか、予約不要で議論などに使える「ラーニングスクウェア」もある。

平日午前、グループ学習室に7人で集まり、ゼミの発表について話し合っていた経営学部の2、3年生は、いずれも「図書館で過ごす時間が増えた」という。平日の開館時間は午前8時45分～午後10時半。旧図書館4館のうち、最も遅い閉館時間と同じだ。女子学生の一人は「遅くまで使えるので助かる」。館内にはパソコン約600台が備えられ、無線LANも完備。平日の利用者は平均6千～7千人で、旧図書館4館の合計の約1.5倍に増えた。

昨年5月に開館した明治大の和泉図書館(東京都杉並区)。面積は旧図書館の1.8倍に広がり、本棚より学習空間の方が目立つようになった。4階建ての館内は、1階に授業もできる情報リテラシー室、2階に会話自由のラウンジ、3、4階には仕切りのある閲覧席を設けてある。4階はパソコン使用不可となっていて、上の階ほど一人での勉強に集中できる環境にした。1日2千人ほどだった利用者は、5千人近くに増えたという。

どの階も大きな窓から外の光を取り込む構造となっていて、1階にはカフェがある。坂口雅樹事務長は「入ってみたくなるおしゃれな図書館を目指した」と話す。

文部科学省の昨年5月の調査では、ラーニングコモンズのような空間がある大学図書館は、全体の15%にあたる226館。うち146館は2009～12年度に設けられていた。

ラーニングコモンズが増えている背景には、大学の授業の変化やデジタル化の波がある。授業は講義を聴くだけではなく、課題を設定し解決していくスタイルが広がり、学生が議論する場面が増えた。文科相が設けた審議会の部会は10年、大学図書館が学習支援に積極的に取り組むよう提言。図書館はデジタル化対応も迫られており、ラーニングコモンズの設置とあわせ、大幅改修や建て替えに踏み切る例が相次いでいる。

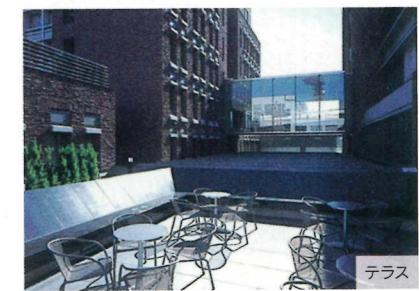
(朝日新聞 朝刊 2013.9.27)

早速 私は、秋の学会の東京出張時に特別に時間を作り、この記事にある①立教大学 池袋図書館(東京都豊島区)②明治大学 和泉図書館(東京都杉並区)の二大学の図書館及び武雄市にTSUTAYAが経営に参画して話題となっている武雄市図書館の先駆けともいえる図書館にレストランを併設し[都会のオアシス 知の拠点]と標榜する③千代田区立日比谷多文化館の視察を行ってきた。とりわけ、立教大学の池袋図書館では専任の事務職員(注)による案内を受けて館内のさまざまな空間を心行くまで堪能させて頂いた。

館内の写真撮影は禁じられていたため①立教大学 池袋図書館及び③千代田区立日比谷多文化館は館内案内のリーフレットの一部を転写して紹介する。②明治大学 和泉図書館では特別に館内の写真撮影を許可して頂いた写真データから一部を紹介する。

(注) 図書館利用支援課 課長 小堀 守氏

1 立教大学 池袋図書館



2 明治大学 和泉図書館





3 千代田区立日比谷図書文化館



今回視察した図書館はいずれも本校の図書館の規模、図書館の利用目的、図書館維持にかけられる予算などにおいて余りにも隔たりがあった。しかし私の見たかった[学生が集い、語れる空間の創設]の具現化へのヒントが、それらの図書館にはあった。そのことが何よりも大きな収穫であった。

有明高専の中で限られた予算・スペースでの本校の図書館にこのような空間が作り得るのか、はなはだ疑わしいものがある。しかしその端緒となるものを手掛けてみたいと密かに意気込んでいる。

今春3月の完成を期して、先に述べた情報検索スペースを撤去し、それに代わる新たな空間を創出する計画を進めているのである。この空間がさらに有明高専の魅力を増幅させる装置の一つになれるこことを心より願っている。

平成25年度「私の薦める一冊の本」紹介文

有明高専によるブックレビューです。4回目を迎える今年は、642編もの作品が応募されました。集まつた作品は、図書館長と図書情報管理部室員、各学科から選出された教員10名で構成される審査員によって厳正な審査が行われ、優れた作品12編に賞が贈られました。入賞者は12/20(金)の全校集会で発表され、全員が応募数上位のクラスには、優秀クラスとして校長より表彰が行われました。入賞作品を以下に紹介しますので、是非、読書の参考にしてください。



『もういちど生まれる』 朝井リョウ著

電気工学科1年 千口 克也

平凡な日常に飽き飽きする、自分の才能の限界を感じる、自分以外の誰かになりたい、思い描いていた大人になれていない、将来が見えない。そんな焦りと不安を抱える五人の十九、二十歳の男女が一步を踏み出す話です。

その中の一人に二浪の予備校生の梢という人がいます。双子の椿よりすべてが少し劣っていて、昔は身代わりとしてもバレないくらいだったけれど、今ではまるで違うようになってしまいました。その梢が「椿と同じくらい幸せになりたい」と再び椿のフリをするのですが、「私の姿で幸せになりたい。今の自分から変わりたい」と本当の気持ちに気づきます。

「誰かになりたい」という気持ちや他人と比べてしまう気持ちは、とても分かります。この本は、学生の今だからこそ、共感できる内容になっています。焦りや不安から一步踏み出し、新しい自分になる勇気を与えてくれる一冊です。



『ステイーブ・ジョブズだったら、こうするね!』 桑原晃弥著

電子情報工学科1年 内田 早耶

私は、正直言うと、あまり他人に興味がわきません。身近にいない人は特にです。でも、こんな私が興味を持った人物がいます。それが、アップル社元社長、ステイーブ・ジョブズです。

この本は、ジョブズの人生を知ることができるとともに、私たちが抱え込む問題と似た数々の壁をどのようにして解決させたのかをよく知ることができます。また、ジョブズの仕事に対する強い気持ちも伝わってきます。

例えば、大勢の人たちとどのようにして差をつければよいのかという問題に、大勢の人は前例がないからという理由で止めてしまう。でも、ジョブズは、やったことがないから挑戦しようという考えをした、と書いてありました。

みんなと、今までの自分の視点ではなく、別の角度から見ることで、また新しいものが生まれるかもしれません。さらに、今壁にぶつかっている人も解決できるかもしれません。



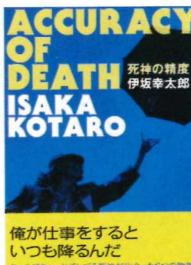
『夏の庭 The Friends』 藤木香樹実著

物質工学科1年 牛川 友希

天国の存在や、自分が息をしなくなったときのこと……。誰しも一度は考えたことがあるだろう。「死」というものは「生」の対極にありながらも、生きる行為の延長線上に存在している。私たち子どもだけでなく大人にとっても「死」はあまりにも未知数で分からぬ不思議なもの……。

そんな「死」への純粋な疑問と好奇心を持った小学生、木山、山下、河辺の三人は、死の瞬間を目撲するため、おじいさんの観察を始める。その過程で三人は、おじいさんとの友情を育み、少しづつ大人に成長し、死ぬことは単に「息をしなくなる」だけのことではないと知る。

あなたにとっての「死」とは「人生」とは「夢」とは何か。三人の子どもとおじいさんのように、あなたは強く歩み、進もうとしているか。今を精一杯生きること、夢を持って、意思を持って生きるためのメッセージを、この物語は私たちに届けてくれる。



『死神の精度』 伊坂幸太郎著

物質工学科1年 内尾 瑠里

人を死に誘う神を死神といふ。これだけ聞くと、ほとんどの人が死神は恐ろしい存在だと感じるでしょう。

この本にててくる主人公である死神は、死神とは気づかれないような姿で死期の近い者の傍に現れ、一週間の調査ののち、対象者の死に合否の判断をくだす仕事を行っている。

そんな死神と関わる人々の死に対する考え方や、死神と出会うことで変化していく対象者の気持ちを楽しみながら読むことができる。また、死神と関わる六つの人生の謎を解きながら最終的にどんな結末が待ちうけているのかも楽しむことができる。

この本を読んで、普段、特に深く考えることのない自分の死や、人生について考え直してみたくなる。また、クールで愉快な死神の存在を信じてみたくなる。自分が死ぬ前はこんな死神と出会って、自己的人生を見つめ直したいと思えるような本だった。



『陽気なギャングが地球を回す』 伊坂幸太郎著

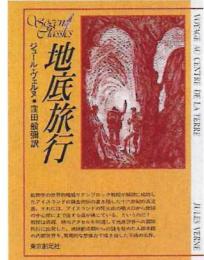
物質工学科1年 福田 晴菜

きつかり四分の襲撃。スマートな強盗劇。無意味な演説に聞き入れば、彼らの姿はもうない。これは「副業・銀行強盗」である個性的な四人の物語。

彼らはそれぞれ得意技や能力を持っている。それらを操り華麗に強盗をする様は、犯罪であることを忘れるほどに私たちを魅了する。

そんな彼らに思わぬ事態が発生。「副業」の報酬が別の強盗に奪われてしまう。奪われた報酬を取り戻すため策を練る四人……。

単なる銀行強盗の争いでは終わらない。奪還に奔走する四人の周りで起る事件が物語のスピードを加速させる。しかし、どんな事態でも彼らはどこか飘々としていて自分のペースを崩さない。その絶妙なバランスが心地よい物語のテンポを生み、読者をひきこむ。また物語にひそむ数々の伏線ともあいまって、読書を爽快なクライマックスへと導く。一文字だって読み飛ばせない、四人の活躍をぜひ読んで確かめてほしい。

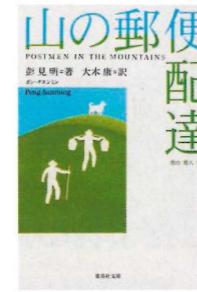


『地底旅行』 ジュール・ヴェルヌ著

2年4組 田上 開進

ある日、地質学の教授が見つけた本の中には謎の紙がはさんであり、そこに書いてあった文字を解読してみると、なんと、地球の中心への道標が示してあった。

こんな物語はよく陳腐なB級SF映画にありがちだ。地球の中心にはタコみたいな形の地底人がいて、人間との壮絶なバトルを展開する。なんていう話を想像する人がほとんどだろう。しかし、この物語はそんなあなた達の想像をはるかに超えてくるに違いない。なにしろこの話はリアルすぎるのだ。つまり、充分現実の話としてあり得えると思うのだ。探検隊が見た光景や様々な出来事があまりにも詳細に描かれており、また、旅の途中で遭遇する摩訶不思議な現象などに対しても科学的解説がされている。まるで作者が本当に地底旅行に出かけて、日記をつけるように書いたようだ。いや、本当に行ったのだと私は思う。とにかくあなた達にも地中の奥底に潜む驚愕の真実を目撃していただきたい。



『山の郵便配達』 彭見明著

2年4組 大石 侑季

将来、自分は職業に就くことができるのか。また、それはどんな仕事で、どういう思いで働くのか。そして、その仕事に誇りを持てるのか。そう遠くはない自分自身の未来に、ワクワクしつつも不安になる。私はそんな、就職について漠然とした不安を持つようになった。きっと、だれもが少しは感じることだろう。そんな時にこの本を読んだ。この本は、山の郵便配達員である父がこの仕事を引退し、息子が引き継ぐための、父にとって最後の道中の話だ。父は息子と犬を連れて配達に行き、道案内をしなすべき仕事を教えていく。

私にとって父と母は、一番身近にいる、尊敬すべき社会人でもある。私はこの本を読んで、両親から改めて仕事の話を聞くきっかけになった。父も母も、自分の仕事が好きで、それぞれの仕事に誇りを持っていることが伝わってきた。

この本を読んで、仕事に対する両親の姿勢を改めて感じてみてはどうだろうか。



『なぜ君は絶望と闘えたのか』 門田隆将著

2年4組 宮崎 徹

今までいろんな本を読んできた。その度に、いろんな感情が出てきた。しかし、登場人物にこれほどにも怒りを覚え、時には同情し、時には感動し涙したのはこの本が初めてだった。

この本は山口県で実際に起きた「光市母子殺害事件」を題材にしたものである。ある日、一人の青年が仕事終わりにいつものように妻子の待つ家に帰った。しかし、愛する妻子は押入れの中で無残な姿で冷たくなっていた。ここから話は本題へと入り込んでいく。犯人が捕まったことでだんだんと明らかになる、あまりにもむごすぎる事件の全体像、少年法によって保護される加害者と、事件の詳しい内容や犯人の名前や顔すらも教えてもらえない被害者遺族。このひどすぎる現状に一人立ち向かう青年。この本は、その青年の九年にもわたる苦闘の生き様を記したものである。この青年の九年の人生とその生き様は人々に感動と勇気を与えたのだ。

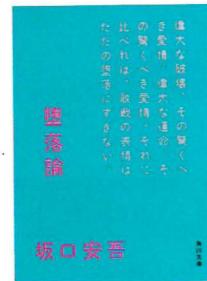


『無人島に生きる十六人』 須川邦彦著

電気工学科3年 岡 龍誠

明治時代に座礁した帆船、龍睡丸。この本は、その乗組員十六人の無人島での生活を書いた実話である。飲み水もなく、短い草が生えているだけのサンゴ礁の島。しかも、座礁した船から持ち出せた食料もわずかという絶望的な状況。しかし、漂流記にありがちな悲壮感は全くない。それどころか十六人全員が前向きな気持ちを持ち続け、水や火の確保、見張りやぐらや網の作成など、知恵と工夫で無人島生活を豊かなものにしていく様子は、漂流という過酷な運命を忘れてわくわくしてしまうほどだ。それに何と言っても、船長やベテランの部下達のリーダーシップがすばらしい。全員をまとめるために、ある四つの約束をする。その約束とは……。

私達は、人生という大海原で、困難に出会い、希望を失いそうになることがあるかもしれない。その時、どのように生きるのか。この本は、きっとヒントを与えてくれる一冊になってくれるだろう。



『墮落論』 坂口安吾著

建築学科3年 椎原 奈央

高専で青春を送り、これから社会へと出していく皆さんに、ぜひ、今読んでほしい本をしてこの一冊を選んだ。

昭和十七年～二十三年の間に書かれた十三篇のエッセイが収録されたこの一冊、明治生まれの文学者が書いた小難しくて面白味のないものだと思わないでほしい。時代が変わっても変わらないリアル、ユーモア、情熱。私は読みながら、ニヤリと、クスクスと、時に声を上げて笑った。そして想い、涙した。賛否両論で分かれるかもしれないが、子供みたいに曇りの無い目でいて、独特で鋭い視点を持ち、少しひねくれているが温かい著者が、私は好きになった。すっかり友達気分である。

高専生！ 文化を作っていくのは私達だ。青春しよう。恋愛もしよう。進もう。そして生きている限り学問をしよう。生きよう。戦い、生きよう！ 生き続けよう！

私は普段こんなに熱くない。この本を読んだせいだ。あなたも熱くなつてみないか。



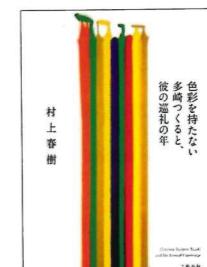
『自分がイヤだ！』 と思ったら読む本 心屋仁之助著 建築学科3年 三栗野 鈴菜

「自分がイヤだ！」私もそのように思うことがあります。ふと本屋に立ち寄ったところ、メインスペースではない隅の方にあったこの本と目が合いました。しかも、ちょうど心の中でそんな風に思っていた時に。そんな状況だったら、誰しも手にとって、立ち読みでもしたくなるでしょう。

この本は、心理カウンセラーを職業とした方の本でした。いわゆる自己啓発書。自分がダメ人間と強く思っている時に読むだろう本だから、言葉の一つ一つが心に響き、新しい自分を見つけられたのかなとも思いました。

普通、小説なんかを読むと結論はどうなんだ、と考えてしまうでしょう。ですが、この本はおそらく、答えないんだだと思います。自分で考えを探し、見つけていく感じ。しかも、正解数は人の数あります。

私はあえて、一気にこの本を読みません。自分がイヤな時に。解決策を探す時だけに。



『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』 村上春樹著 電気工学科4年 伊木田 公貴

社会には規模に関わらずグループが存在する。それは会社であり学級であり、少人数の友人同士でもある。人は誰しもなにかしらの集団に属している。そして集団に対し心を許すほど、除外された時に負う傷は深くなる。

多崎つくるは除外された一人である。高校で形成された五人のグループから突然外されることになり深い傷を負う。多くの時間を孤独に過ごし立ち直った頃、一人の女性が傷からは未だ血が流れていると彼に告げた。

そして数十年の時を経てつくるは残り四人を巡る旅をする。それぞれ違う人生を歩んだ彼らを巡礼する中で、つくるは除外された理由、過去と今の感情、現状を目にする。その中で辛い過去を想い出に変えてゆく。

気に入った場所との別れは辛い。集団の外に出る場面は必ず存在する。傷を負うこともあるだろう。学生という期限付きの集団に属する僕らには身近なことだ。彼の巡礼を通して過去と将来の別れについて考えて頂きたい。

審査員講評

図書館情報管理部室員 菱岡 憲司

ステレオタイプな文章が嫌いだ。今回、「あなたは～ですか?」という押しつけがましい書き出しが頻出していた。すべて、サンプルの文章を模したもの。特色のある書き出しも、皆が同じように書いてくると、読んでいてうんざりする。自分の言葉で語ろう。

機械工学科 原槙 真也

皆さんの図書紹介を初めて審査しました。読書離れが進んでいると言われていますが、読ませてもらった紹介文はジャンルが多岐に渡り、しかも力作揃いで甲乙付け難く、何度も読み返し選出した次第です。最近、専門書や実用書等にシフトしている私にとって、皆さんの紹介文はどこか新鮮で、懐かしく、本当に読みたくなるような素直さを感じ、とうとうその一冊を購入しました。

最近は読書の形態も様々です。私は本の他、iPadや通勤途上で朗読を聞いたりします。本が苦手と思っていた人は手軽な所から読書をしてみては如何でしょうか?

電気工学科 清水 晓生

審査を通して多くの紹介文を読ませてもらいました。同じ本でも読み手によって紹介するポイントが異なり、非常に興味深かったです。中には本の内容をただまとめてだけの紹介文もありました。本の内容はわかるのですが、読みたいとは思えません。本を読んで自分がどう感じたのか、どこに共感したのかを書くと読者もその本を読んでみたくなると思います。

紹介文は他人に読んでもらうために書かれています。紹介されている本をぜひ読んでください。そして、面白いと感じたところを紹介文と比較してみてください。

電子情報工学科 森 紳太郎

人に本を紹介する、というのは実に難しい。まず人に紹介したくなる本に出合わなくてはならないからね。適当に本棚や書店から探しても、そこに「この本を読んでよ!」という思い入れがない紹介では、その本を読もうと心を動かす人もいないでしょう。逆に、思い入れがたっぷり注がれすぎている紹介文もまた、ついていけなくて私なんかは避けてしまいそうだ。結局、これは紹介文だけでなく芸術表現全てに言えることなんだけど、一見冷静沈着な文章の裏に、熱い思いが流れていることを感じさせるような紹介文に惹かれる。

物質工学科 小林 正幸

皆さんのブックレビューを拝読し、審査というものをはじめました。皆さんが、「心揺るがされたり、読んで面白いから、是非読んで!」というのが伝わるものが多くありました。中には、読んでみたいと思う作品もあり、次の冬休みや春休みに挑戦してみようかと思います。ただ中には「え?それだけ?」なんてものがあったのが少々残念でした。ブックレビューでは「人に伝える難しさ」や「人に伝える大切さがわかった」のではないかと思います。読書を続けて、そして友達にその本を紹介して、紹介されたら読む。そんなサイクルが出来ると良いですね。夏休みに限らず、読書を、そしてブックレビューを続けてみてください。

建築学科 上原 修一

「後生畏るべし」とは、若者の無限の可能性をいいあらわす言葉です。

この2年、審査委員をしてきましたが、学生諸君の文章に大いに刺激を受けました。日頃の授業での印象とは異なる、そのような「畏るべし」の感覚です。

時間には限りがあり、人生で読める本は僅かと思います。何を読むべきか、その手掛かりとなるものが読んだ人の「紹介文」でしょう。楽しいばかりではなく、真に読んでほしいものについて、若者の感覚で紹介して頂きました。今後も、読書を続け、教養を高め、各分野で大いに活躍されることを期待します。

一般教育科 田中 彰則

何を面白いと感じ何に興味を示すのか、それはまさしくその人自身を表している。

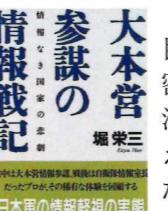
どの本を紹介したいのか、その本を選んだ時点での中身を人に見せることになるのだろう。そして、ストーリーの核心部分をぼかしながら巧みに内容を紹介し、さらに、自分の体験や感想を交えて一つの作品を作り上げる。紹介文を書くということは、なんて難しく、また自分を振り返る行為なのだろう。と小難しいことをほんの少しだけ考え、その後は、みなさんの作品を単純に楽しみながら読みました。

教職員推薦図書

平成25年度に新しく着任された先生方の推薦図書です。印象に残った本や、学生に読んでもらいたい本を選んで、エピソードを交えつつ推薦していただきました。
ここで紹介する本は図書館でも揃えていきますので、ぜひ読んでみてください。

電子情報工学科
江頭 成人

『大本営参謀の情報戦記
－情報なき国家の悲劇』
堀栄三 著

日本が米英に宣戦布告した12月8日を目前にした平成25年12月6日に「特定秘密の保護に関する法律」(特定秘密保護法)が成立し、"情報とは何か"を改めて考える機会を得ましたので、紹介させていただきます。

大日本帝国軍が情報で敗れたことはよく知られています。本書にあるように、浪花節的、楽観的、恣意的な収集、分析、加工、及び提示がなされた情報を基に行動計画が策定され、実施されるとすれば、悲劇が訪れるることは想像に難くありません。本書や小松真一著『虜人日記』等の貴重な1次情報を基に、的確な分析、加工、そして提示がなされている山本七平著『日本はなぜ敗れるのかー敗因21カ条』や戸部、寺本、鎌田、杉之尾共著『失敗の本質ー日本軍の組織論的研究』等は、情報の処理手法としてたいへん参考になります。映像としては、『NHKスペシャルドキュメント太平洋戦争全6集』や『証言記録 兵士たちの戦争』等があります。(これらの書籍もあります。)

本書で特筆すべきは、コミュニケーション(情報のやり取り)の直接的な参考となることです。進学や就職等の筆記試験や面接は、その情報から出題者や面接者の意図を読み取り、回答を考え、適切な表現で情報を返すというコミュニケーションですから、高度な情報の処理能力が必要となります。作者や出演者が残してくれた知識や手法という貴重な情報を、書籍や映像等から確に読み取り、それを活かすことが歴史に学ぶということであり、先人達の苦労に報いることになると思います。学生時代には、結果を覚えるよりも、結果に至るまでの過程を学び、失敗を体験することが重要だと思います。私が紹介した本のほとんどは高専の図書館では読むことができないかもしれません。読書(授業)は、書籍(科目)から得た知識だけではなく、どのように読んだ(学んだ)かという読書法(勉強法)の確立を行いう機会です。そのような視点で、手近にある様々な本(科目)を読んで(学んで)みてはいかがでしょうか。

電子情報工学科
ゴーチエ ロヴィック

『都市』

クリフォード D.シマック 著



サイエンスフィクション(SF)と言ったら、スペースオペラ(スター・ウォーズなど)に多く考えられます。でも、SFは宇宙、宇宙船、宇宙人だけではありません。基本的に、地球と人間の未来の物語です。このテーマでは、デストピア/暗黒郷(1984など)が多いのですが、他の形はまだまだあります。クリフォード・D・シマックさん(Clifford D. Simak)の「都市」のことを聞いたことがありますか。この小説のあらすじは下記の通り:

人間が昔、消えました。なぜか、犬達はわかりませんが、言葉とテクノロジーは人間からもらったようです。でも、人間は何の生物でしたか。残りは複数の物語ですが、この物語達は“本当でしょうか”、それとも“たとえ話でしょうか”、それで、“意味は何でしょうか”と犬たちが論じています。

この不思議とほろ苦い物語は様々な哲学的と社会的なテーマが表示されていますし、人間以外の考え方を想像させます。

一般教育科
波止元 仁

『数学ガール』シリーズ
結城浩 著



本シリーズは、フェルマーの最終定理など数学における有名な問題を題材にして、対話形式で一部証明を行っています。フェルマーの最終定理については、4次の場合には一般の人が読んでも分かるように証明が与えられており、定理を証明する楽しさを味わうことが出来ると思います。

また、有名な定理の証明以外にも大学の数学で学ぶような概念や問題、例えばε-δ論法や「任意の点で不連続な関数や一点でだけ連続な関数は存在するか?」といった問題も扱われています。概念の説明、定理の証明、具体例の構成法やその着想に至る経緯なども対話形式で分かりやすく書かれています。数学をもっと勉強してみたいと思っている皆さんには、時間のある時に本シリーズを読みながらじっくりと数学を考えてみるのも良いかもしれません。

きっと今よりもっと数学が好きになると思います。皆さん、数学により興味を持ち勉強に励んでくれるよう願っています。



新着図書紹介

学科教員推薦図書

図書館では、各学科の教員から学生の皆さんの学習・研究を助けるために購入する図書を推薦していただいているます。
今年度は、以下の図書を購入しましたので、ぜひ学習に役立ててください。

一般教育科

著者名	書名	出版社
ベン編集部編	ユダヤとは何か。聖地エルサレムへ	阪急コミュニケーションズ
ベン編集部編	ルネサンスとは何か。	阪急コミュニケーションズ
ベン編集部編	キリスト教とは何か。西洋美術で読み解く、聖書の世界	阪急コミュニケーションズ
ベン編集部編	キリスト教とは何か。もっと知りたい!文化と歴史	阪急コミュニケーションズ
ベン編集部編	イスラムとは何か。	阪急コミュニケーションズ
ベン編集部編	神社とは何か?お寺とは何か?:神社&仏閣	阪急コミュニケーションズ
アリス・ミルズ監修	世界神話大図鑑:神話・伝説・ファンタジー	東洋書林
ジェリー・ボウラー著	クリスマス百科事典:図説	柊風舎
アレクサンダー・ヴェルナー著	カルロス・クライバー:ある天才指揮者の伝記【上・下】	音楽之友社
リヒャルト・デアキント著	数とは何かそして何であるべきか	筑摩書房
マイケル・モナスタイルスキー著	フィールズ賞で見る現代数学	筑摩書房
志賀浩二著	現代数学への招待:多様体とは何か	筑摩書房
吉田洋一、赤摶也著	数学序説	筑摩書房
加藤文元著	数学の想像力:正しさの深層に何があるのか	筑摩書房
志村五郎著	数学で何が重要か	筑摩書房
彌永昌吉、赤摶也著	公理と証明:証明論への招待	筑摩書房
原亨吉著	近世の数学:無限概念をめぐって	筑摩書房
志賀浩二著	数学という学問:概念を探る	筑摩書房
岩田義一著	偉大な数学学者たち	筑摩書房
遠山啓著	現代数学入門	筑摩書房
河原林健一、田井中麻都佳著	これも数学だった!?:カーナビ・路線図・SNS	丸善出版
芳沢光雄著	誰かに話してみたくなる数学小噺	ベストセラーズ

機械工学科

大西清著	JISにもとづく機械設計製図便覧 第11版	理工学社
米山猛著	機械設計の基礎知識:はじめて設計をする人へ	日刊工業新聞
畠村洋太郎編著	機械設計の考え方と方法	日刊工業新聞
実際の設計研究会著	機械設計に必要な知識とデータ	日刊工業新聞
手塚則雄、米山猛著	設計者に必要な材料の基礎知識:これだけは知っておきたい機械材料の知識とデータ	日刊工業新聞
稻城正高、米山猛著	設計者に必要な加工の基礎知識:これだけは知っておきたい機械加工の常識	日刊工業新聞
山田学著	めっちゃ、メカメカ!リンク機構99→∞:機構アイデア発想のネタ帳	日刊工業新聞
日本規格協会編	機械要素	日本規格協会
日本規格協会編	機械安全	日本規格協会
日本規格協会編	労働安全・衛生	日本規格協会

電気工学科

ニコラス・コリンズ著	Handmade electronic music:手作り電子回路から生まれる音と音楽	オンライン・ジャパン
佐々木浩一、富岡智著	エッセンス電気・電子回路	共立出版
佐藤秀則【ほか】共著	電気回路教室	森北出版
石川洋平著	よ~くわかる最新電子回路の基本としくみ:回路の基礎からシミュレーションまで!	秀和システム
石井聰著	電子回路の基本66	オーム社
前坂昌春著:前坂桃子画	マンガ版オーディオ電気数学:基礎からわかるアンプの設計・製作入門	誠文堂新光社
浅田邦博監修	はかる×わかる半導体 入門編	日経BPコンサルティング
春日健著	デジタル回路	電気書院
トランジスタ技術Special編集部編	やりなおしのための実用アナログ回路設計	CQ出版社
坂本康正著	電子回路:基礎から応用まで	共立出版
金田明彦著	電流伝送方式オーディオDCアンプ:音楽ファンのための自作オーディオ:最新版9機種	誠文堂新光社
吉本雅彦編著	集積回路工学	オーム社
鈴木哲哉著	作って遊べるArduino互換機:愉快な製作例が満載	ソシム
佐藤淳一著	よくわかる最新半導体プロセスの基本と仕組み 第2版	秀和システム

土田英一著	電子回路	電気書院
米山淳著	電気回路基本問題集	オーム社
別府俊幸著	OPアンプMUSESで作る高音質ヘッドホン・アンプ:音楽を聴くのが楽しくなる	CQ出版社
相良岩男著	トコトンやさしいアナログ回路の本	日刊工業新聞
谷腰欣司著	トコトンやさしい電気回路の本	日刊工業新聞
谷腰欣司著	トコトンやさしい電子部品の本	日刊工業新聞
谷腰欣司著	トコトンやさしい回路設計の本	日刊工業新聞

電子情報工学科

石川洋平著	よ~くわかる最新電子回路の基本としくみ:回路の基礎からシミュレーションまで!	秀和システム
末松安晴、伊賀健一著	光ファイバ通信入門 改訂4版第4刷	オーム社
伊庭斉志著	Cによる探索プログラミング:基礎から遺伝的アルゴリズムまで	オーム社
L. テービス編	遺伝アルゴリズムハンドブック	森北出版
Gary Bradski, Adrian Kaehler著	詳解OpenCV:コンピュータビジョンライブラリを使った画像処理・認識	オンライン・ジャパン
永田雅人著	実践OpenCV 2.4:映像処理&解析	カットシステム
左貝潤一著	導波光学	共立出版
Paul Teator著	Rクックブック	オンライン・ジャパン

物質工学科

畠山重篤著:徳田秀雄絵	カキじいさんとしげぼう	カキの森書房
Hatakeyama Shigeatsu	Grandfather oyster and shigebo	カキの森書房
John McMurry	有機化学 第8版【上・中・下】	東京化学同人
John McMurry	Study guide and student solutions manual: organic chemistry 8th ed.	Brooks/Cole
岩田想編	膜タンパク質構造研究	化学同人
北條浩彦編集	原理からよくわかるリアルタイムPCR完全実験ガイド 改訂新版	羊土社
村松正寛編	新・ラボマニュアル遺伝子工学	丸善
赤坂甲治、大山義彦共著	遺伝子操作の基本原理	裳華房
安藤喬志、宗宮創著	これならわかるNMR:そのコンセプトと使い方	化学同人
竹内敬人、角屋和水、加藤敏代著	初歩から学ぶNMRの基礎と応用	朝倉書店
畠山重篤著:熊谷龍子短歌	森は海の恋人	文藝春秋
畠山重篤著:スギヤマカナヨ絵	鉄は魔法つかい:命と地球をはぐくむ「鉄」物語	小学館
畠山重篤著	日本「汽水」紀行:「森は海の恋人」の世界を尋ねて	文藝春秋

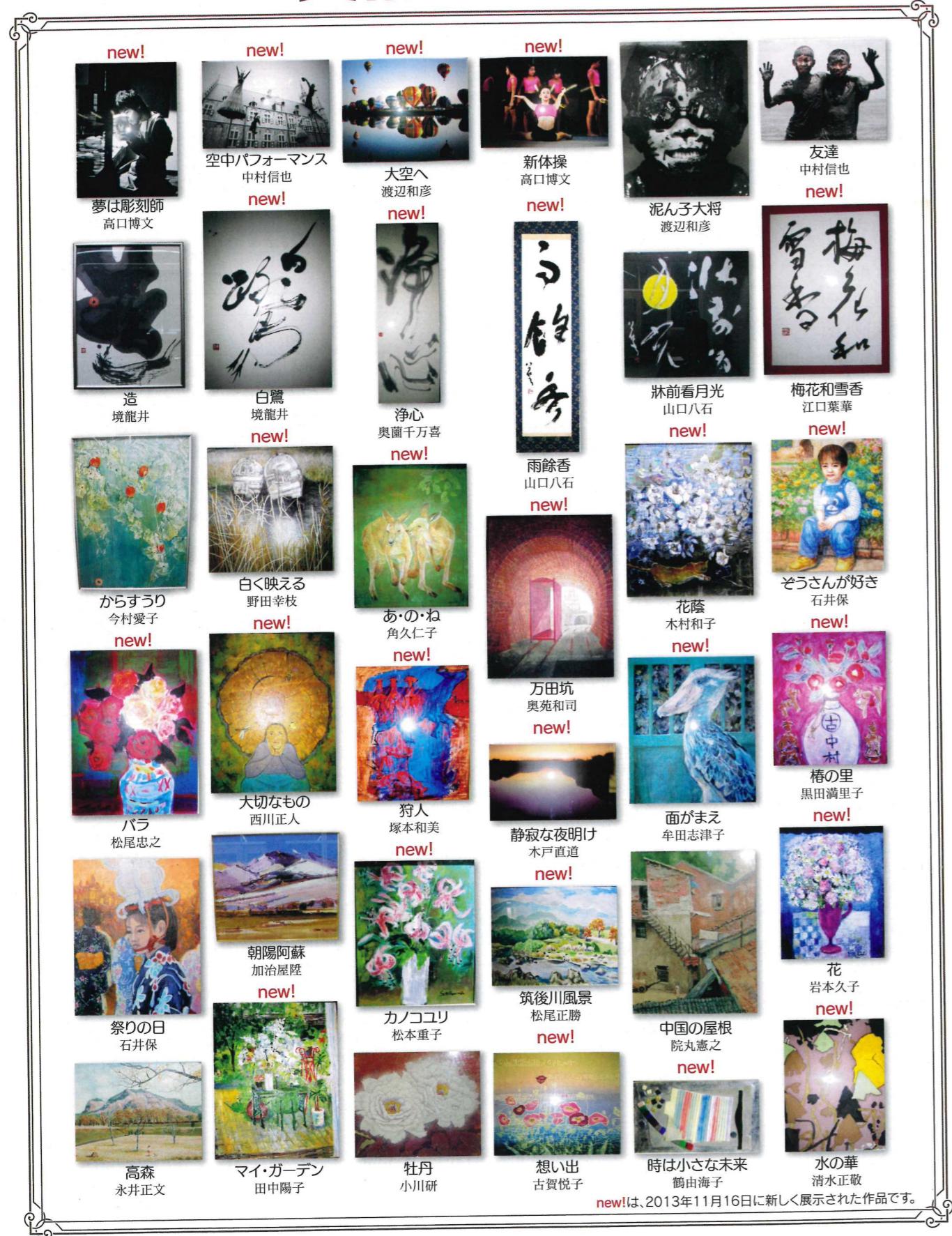
建築学科

伊藤雅春【ほか】編著	全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集 卒業制作2013	近代建築社
「建築ドリル」編集委員会編	都市計画とまちづくりがわかる本	彰国社
上田篤著	建築ドリル:空間表現の基礎を学ぶ	学芸出版社
建築構造用語研究会著	図形ドリル:平面・立体表現の基礎を学ぶ	学芸出版社
日本建築学会編	スパッとわかる建築構造	エクスナレッジ
前川純一、森本政之、阪上公博著	あたりまえのまち/かけがえのないもの	技報堂出版
西田雅嗣、矢ヶ崎善太郎編	建築・環境音響学 第3版	共立出版
平尾和洋、未包伸吾編著	図説建築の歴史・西洋・日本・近代	学芸出版社
樋山健二、楠浩一著	テキスト建築意匠	学芸出版社
樋山健二、楠浩一著	ひとりで学べるRC造建築物の構造計算演習帳 許容応力度計算編	日本建築センター
建築申請実務研究会編	ひとりで学べるRC造建築物の構造計算演習帳 保有水平耐力計算編	日本建築センター
建築申請memo 2013	建築申請memo 2013	新日本法規出版
日経アーキテクチュア編	敷地・地盤のキホン:設計前にこれだけは知っておきたい	日経BP社
建築思潮研究所編	学校:小学校・中学校・高等学校 3	建築資料研究社
建築設計テキスト編集委員会編	集合住宅	彰国社
服部紀和執筆	音楽ホール・劇場・映画館	市ヶ谷出版社

専攻科

三宅和司著	抵抗&コンデンサの適材適所:回路の仕様に最適な電子部品を選ぶために	CQ出版社
アナログ・デバイセズ著	A-D/D-A変換ICの実用技術:高性能を引き出す回路の作り方と実装方法	CQ出版社
奥村晴彦、黒木裕介著	LATEX2 ε 美文書作成入門 改訂第6版	技術評論社
原島俊、高木博史編	酵母の生命科学と生物工学:産業応用から基礎科学へ	化学同人
杉山政則編著	遺伝子とタンパク質のバイオサイエンス	共立出版
日端康雄著	都市計画の世界史	講談社
日本建築学会編	設計のための建築環境学:みつける・つくるバイオクライマティックデザイン	彰国社
金箱温春著	構造計画の原理と実践	建築技術
	日本建築学会東北支部2011年東日本大震災災害調査報告	日本建築学会東北支部

平成25年度美術ギャラリー紹介



図書館統計

平成24年度利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	23	26	25	21	19	25	24	21	19	22	20	270
入館者数 総数	4,200	5,421	5,840	6,583	3,656	2,092	4,521	6,052	3,702	4,046	4,733	1,436	52,282
(内夜間)	655	908	910	1,374	342	0	739	944	694	840	787	0	8,193
(内土曜日)	112	91	270	229	107	0	72	259	70	121	324	0	1,655
1日平均	168.0	235.7	224.6	263.3	174.1	110.1	180.8	252.2	176.3	212.9	215.1	71.8	193.6
貸出冊数 総数	332	487	464	585	223	92	351	244	448	389	239	69	3,923
(内夜間)	38	138	122	130	33	0	84	65	99	140	30	0	879
(内土曜日)	13	16	15	36	10	0	8	12	2	6	22	0	140
1日平均	13.3	21.2	17.8	23.4	10.6	4.8	14.0	21.3	20.5	10.9	3.5	14.5	

分類別図書貸出冊数の推移

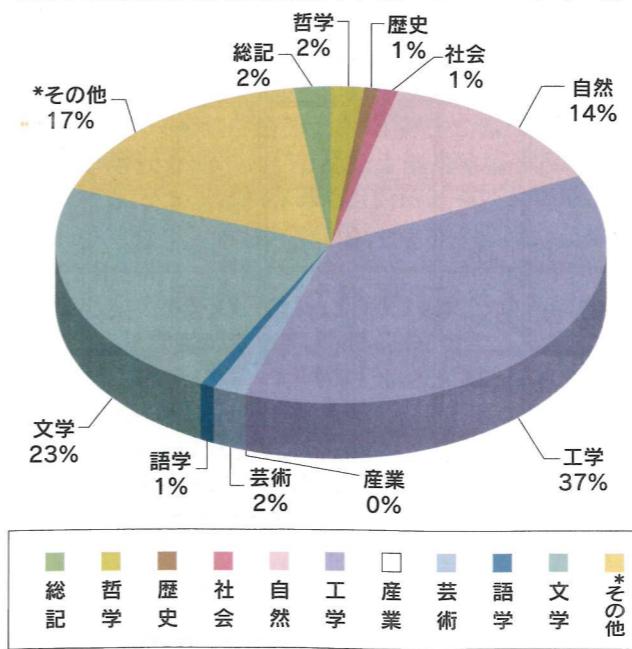
年 度	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学	産業	芸術	語学	文学	* その他	合 計
平成 20 年度	88	62	90	67	523	1,756	13	108	48	971	899	4,625
平成 21 年度	83	200	46	52	587	1,684	12	136	40	1,071	914	4,825
平成 22 年度	104	64	23	32	754	1,632	2	48	53	968	908	4,588
平成 23 年度	146	80	48	60	624	1,594	4	41	58	1,153	640	4,448
平成 24 年度	110	36	57	44	590	1,519	1	46	58	917	545	3,923
平均	106	88	53	51	616	1,637	6	76	51	1,016	781	4,482

*「その他」は、文庫・新書および雑誌の貸出冊数を示す。

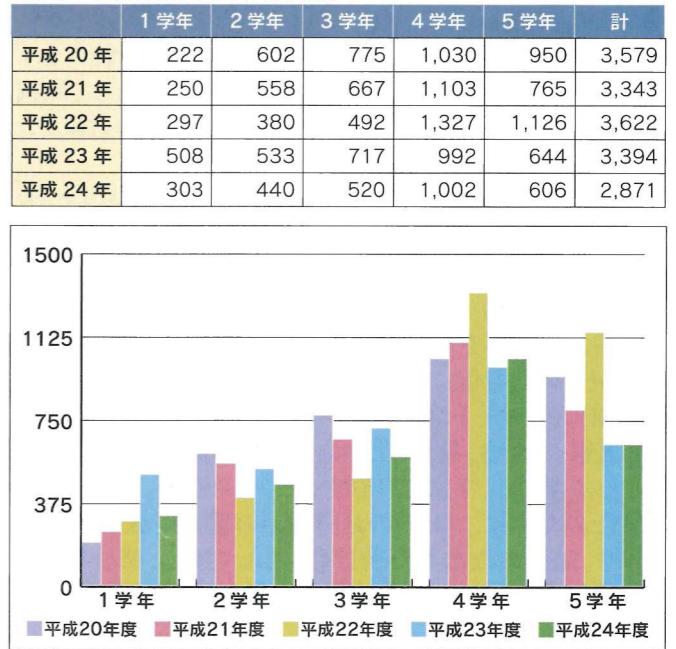
利用状況の推移

年 度	開館日数	利用登録状況			入館者数		貸出冊数			1日当たりの数値	1人当たりの数値				
		総数	(内学生)	(内教職員)	(内学外利用者)	総数	(内夜間)	土曜日	総数	(内学生のみの貸出冊数)	(内夜間)	土曜日	1日当たりの利用者数	(内学外利用者数)	1人当たりの貸出冊数
平成 20 年度	274	1,306	1,097	165	44	57,205	11,636	4,625	4,061	1,251	232	208.8	16.9	3.7	3.5
平成 21 年度	274	1,352	1,085	209	58	58,441	11,602	4,684	3,978	1,242	222	213.3	17.1	3.7	3.5
平成 22 年度	277	1,321	1,083	174	64	57,317	13,146	4,588	4,102	1,449	179	206.9	16.6	3.8	3.5
平成 23 年度	273	1,324	1,082	176	66	54,967	11,869	4,448	4,086	1,055	143	201.3	16.3	3.8	3.4
平成 24 年度	270	1,585	1,086	237	73	52,282	9,848	3,923	2,040	1,019	78	193.6	14.5	1.9	2.5

分類別図書貸出冊数(平成20~24年平均)



学年別図書貸出冊数



郷土の文化財

重要文化財 旧筑後川橋梁(筑後川昇開橋)

昭和10年 福岡県大川市・佐賀県佐賀市諸富町

福岡県と佐賀県との境を流れる筑後川の河口から約8.5km上流に位置する旧筑後川橋梁(筑後川昇開橋)は、鹿児島本線と長崎本線を接続する佐賀線の橋梁であった。佐賀線は昭和6年9月に矢部川(現在の瀬高)と筑後柳河間が開業し、昭和10年5月に矢部川と佐賀間の全線が開業した。昭和62年3月に全線廃止となった。

佐賀線廃止後、解体が検討されたが、地元の強い保存要望があつて平成8年遊歩道として利用されるようになった。橋梁は、筑後川流域での生産物を運搬する船舶が航行できるように可動橋として建設された。橋梁は14基の鉄筋コンクリート造橋脚、その上の可動桁と両側の控えトラス桁、それら両側の計12連の鋼桁で構成されている。全長507.2mのうちの24.2mが高さ23mまで上昇できる。可動桁昇降のための巻揚機は、可動桁両側にある2基の吊上塔のうち、大川市側の塔に設置されている。鉄道技師釘宮磐を中心として工事は行われ、工事費は54.86万円であった。

鉄道橋の時は列車通過時のみ下降させていた。現在は、9時台から16時台の各時間帯5分から35分の間に渡ることができる。

当橋梁は、日本最古の昇開式可動橋であり、水陸運の共栄を意図した特殊な構造形式を採用して地域経済の活性化に寄与し、また、鉄道可動橋建設技術の確立を示す記念碑的遺構として重要である。(建築学科 松岡 高弘)



中央部分(大川市側川上から)



上昇中の可動桁(大川市側川下から)



橋脚と鋼桁



トラス桁と吊上塔

お知らせ

文献検索データベースJDreamIIが2013年4月からJDreamIIIになりました。
<http://lib.nagaokaut.ac.jp/kousen/JDream/JDream.html>にアクセスし、ログイン・
使用方法をよく読んで利用してください。詳しくは図書館員にお尋ねください。

編集後記

映画の原作が小説である場合、原作から読みますか。映画から見ますか。原作に思い入れがあつて映画はあえて見ないとか、映画で十分だから原作は読まないという場合もありますね。

突然なぜ映画の話などし始めたかといいますと、今年度は図書館閲覧室のコピー機の向かいの棚で「映画原作特集」をやっていたからです。知っていましたか。古いのからまあまあ新しいものまでいろいろ並べてみました。本を読もうと思い立った時、昔の偉大な作家が書いた名作に挑戦するのもいいですよね。でもその前に、ウォーミングアップにちょっと軽いものから……と思ったとき、見たことのある映画の原作ならイメージしやすいし、手に取りやすくありませんか。そんなあなたのために、コピーのお向かいの棚に用意してあります。勉強のための資料はもちろんですが、楽しみのための本もたくさんありますので暇だなと思うときには、

どうぞ図書館にお越しください。

私が学生の頃、図書館は本を読んだり勉強したり、一人で黙々と過ごす場でした。現在ではラーニング・コモンズなどの学生同士が話し合い知識や情報を共有する学習スペースが注目されています。また、カフェを併設した図書館もあり、憩いの場としての役割も求められているようです。

学習の拠点としての役割と、リラックスしたいときほっとできる空間としての役割。両方を兼ね備えたらとも素敵な図書館になりそうですね。そして、居心地の良い図書館には質の高い図書館サービスも必要です。利用しやすいサービスを心がけたいと思います。

最後になりましたが、刊行にあたり、原稿を執筆していただいた先生方、ご協力いただきありがとうございました。

(図書情報係 福田)